

私が蒔(ま)いた小さな種

部落解放に願いと祈りをこめ私が蒔いた小さな種
どこかの片隅にそっと芽吹いているだろうか

せつかく芽吹いても 意地の悪い遅霜に
傷めつけられてはいないだろうか

心優しい人の手に水とじやしが施され
何時の日か美しい花が開くであろう

私はそれを待つて居る たとえ小さい花でも良い
早く開いておくれ 部落解放という名前の花よ

江口いと著 『人の値打ちより』

この詩は、被差別部落に生まれた一人の女性が部落解放を願って詠んだ詩です。

いらさんが蒔いたこの種が、しっかりと根を張り、たくさんの花をさかせるよう、私たちは育てていかななくてはなりません。

部落差別問題は決して過去の問題ではありません。部落差別をなくしていく活動は、私たち周りにある様々な人権問題の解決に深く繋がっているのだよ。

8月は同和問題啓発強調月間です！

すべての人の人権が尊重される社会を目指して、『差別をしない』『差別を許さない』そんなことが当たり前の世の中になることを願っています。

